allcinema

ジゴマ（1911）

ZIGOMAR

メディア 映画
ジャンル ミステリー
製作国 フランス
色彩 B&W
初公開日 1911/11/
公開情報 劇場公開

【解説】
やがてアメリカで盛んになる連続活劇の嚆矢とされる、フランス産探偵劇の大古典である。当時としては珍しい一時間に及ぶ長篇で、好評につき作られた二本の続編が一緒になった、いわば総集編が現在日本で見られるバージョン。探偵ポーランの事務所。怪盗ジゴマ団の被害報告を読んでいた彼は慌てて外へ飛び出す。そこへ近づき机をあさる掃除夫がパッと変装を解くと、これがジゴマその人（ここまでがワンカットで思わず引きずり込まれる）。とにかく変幻自在のジゴマ。パリの街も堂々と姿を変えて歩く。アルプス山麓へ向かう登山客で賑わう列車でホールドアップ。かと思えばその線路を爆破して追っ手をまいたり、ポーランが湖をモーター・ボートで急ぐと飛行機で爆撃。もう悪事は何でもござれ。次に、ある銀行を襲った彼らをポーランが待ち伏せ。金庫室を水攻めにして捕らえるが、ジゴマはまたも彼に重傷を負わせ逃亡。そこで、親友ニック・カーター代わっての登場となる。連中の賭博場に踏み込むと、即座に音楽会場に変わる仕掛けに惑わされ、今度も取り逃がす。更に、富豪夫人を誘拐した一団を追って、逆に捕らえられる。が、彼らの女スパイ、ラ・ロザリンに解放され、彼女はつかまりリンチを受ける。ここで、急に場面が飛ぶ。“カーター死す”の報を祝う彼らの前にその当人が現われ、一団を一網打尽に。ジゴマも“最早これまで”と毒をあおって自決する。なにせ古い映画で話のまとまりはないが、場面的には現代の映画と大差ない表現に達している所もある。第一、犯罪のスケールの大きいのがいい。

【クレジット】
監督 ヴィクトラン・ジャッセ Victorin Jasset
出演 アルキイェール
ジョゼット・アンドリオ
オルガ・デミドフ
シャルル・クラウス
リアベル
カミーユ・バルドウ
ジルベール・タリウ
ポール・ザイデ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.